



疑義照会・処方医への情報提供

服薬コンプライアンス・アドヒアランスの不良



事例

【事例の詳細】

80歳代の患者にモビコール配合内用剤LDが処方された。薬剤師は、患者に水に溶かして服用することを説明し、患者向け資材を渡した。薬剤の交付後、家族から、患者は便秘が改善せずトイレにいる時間が長いことを聴取した薬剤師は、服用状況を確認するため、患者宅を訪問した。患者はモビコール配合内用剤LDを水に溶かさず、そのまま服用していた。患者は高齢であり、薬剤を正しい方法で服用することが困難であると判断した薬剤師は、服用方法が簡便なラグノスNF経口ゼリー分包12gへの変更を処方医に提案し、了承された。

【推定される要因】

患者は散剤を水に溶かして服用する習慣がなかった。また、患者は高齢で、薬剤師が説明したことを理解して服用することができなかった。

【薬局での取り組み】

薬剤を交付後、患者の服用状況などを確認する。患者が適切に薬剤を服用・使用できるよう処方医に患者に適した薬剤の情報を提供する。



その他の情報

モビコール配合内用剤LD/HD 製品Q&A^{*}

Q.モビコール配合内用剤LD・HDを溶解しないで、粉のまま飲水とともに服用できますか？

A.溶解しないで粉のまま服用することは、承認外の用法になり、有効性・安全性を検討していないため避けてください。

主成分のマクロゴール4000が、“保持した水”を大腸に届けることで排便を促進します。したがって、必ずモビコール配合内用剤LD1包あたり約60mL又はモビコール配合内用剤HD1包あたり約120mLの水で溶解してから服用をお願いします。

^{*}持田製薬株式会社 医療関係者向けサイト（参照2024年7月23日）



事例のポイント

- 患者の服用状況などを確認するため、薬剤師には、必要に応じて、薬剤を交付後に服薬フォローアップを行うことが求められている。
- 薬剤師は、交付時に患者向け資材などを活用して薬剤の服用方法について説明するだけでなく、交付後に電話などで服用状況や体調変化の確認を行うことや、患者宅に出向き実際の服用方法を見て確認することも、薬剤の適正使用のために有用である。
- 薬剤師は、患者の生活環境や服用状況、服用に関する理解力などを考慮し、適切な薬剤を処方医に提案することが重要である。

